

【各学部の事例】

小学部



I 授業実践の事例①

(1) 授業実践で取り扱った国語科・学習指導要領の内容と年度初めの評価

対象児童・学年	教科・段階	領域	知識及び技能	評価	思考力・判断力・表現力	評価	主体的に学ぶ態度	評価
A(4年) B(5年)	国語 小2	聞く 話す	・身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れている。	○ ○	・体験したことなどについて、伝えたいことを考えている。	△ △	・経験したことや思ったことを言葉にして表現しようとしている。	○ △
C(4年) D(5年)	国語 小3	聞く 話す	・出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れている。	○ ○	・相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝え、相手の思いや考えを受け止めている。	○ ○	・自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることに関心を持ち、積極的に学習に取り組もうとしている。	○ ○

※評価欄は令和7年5月の評価を示し、評価の指標は次の通りである。

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
 △：一部達成している。まだ支援を要する。

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名(指導内容)★イニシャルは児童名を示す。
国語	「読んでみよう、お話しよう①②」(絵本の読み聞かせを通して、読むことなどの頑張ることのめあてを自分で選択したり、振り返りをしたりする)…B 「えほんをよもう①」(絵本の読み取りを通して、「○○を」や「○○と」などの助詞を聞き取り、活用して伝える)…A 「絵本を読もう①②」(絵本の読み聞かせを通して、登場した物を読み取ったり、驚いたことや面白かったこと等の感想を伝えたりする)…A、D
生活単元 学習	「なかよくなるう[学校間交流]」(はじめの言葉を手本に沿ってタブレット端末へ入力したり、お礼の言葉を書いて手紙を制作したりする)…B 「なかよくなるう[学校間交流]」(学校案内の内容を読む練習をしたり、せんばく校クイズのクイズを制作したりする)…A 「なかよくなるう[学校間交流]」(司会進行や学校案内の内容を読む練習をしたり、楽しかったこと等の感想を発表したりする)…A、D
日常生活 の指導	「帰りの会(感想発表)」(1日の中で、頑張ったことや楽しかったことを思い出して発表する)…A、C、B、D

(3) 国語科の対象単元の実践事例

① 単元名「えほんをよもう②」(計10時間)★令和7年11月実施

② 単元目標

ア 絵や挿絵、繰り返しの言葉に注目し、登場するものや場面を理解しようとしている。

(知・技)

イ 絵本の内容について、好きな場面や気付いたことを、二語文、三語文で表現し、感想を発表する。(思・判・表)

ウ 絵本に関心を持ち、登場人物になりきって自分なりの表現で伝えようとしている。

(学・人)

③ 個別の達成状況

対象児童・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
C (4年)	国語 小3	○	○	○	・他児童の感想を聞き、感想内容に関連した教師からの質問に対して答えたり、自分の思いを伝えたりした。
D (5年)	国語 小3	○	○	○	・振り返り発表では、絵本の内容を通して自分が驚いたことや、面白いと感じたことを二語文、三語文で感想を伝えた。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一である。

(4) 生活単元学習の対象単元の実践事例

① 単元名「たのしいがっこうをつくろう～11・12がつ～」(計18時間)★令和7年11月実施

② 単元目標

- ア 制作に必要な材料や安全な道具の使い方を知り、手順に沿って壁面装飾や立体物の制作を進める。(知・技)
- イ クリスマス展を楽しんで見てもらえるように装飾を工夫して作ったり、友達や教師に頑張ったこと、思ったことを伝えたりする。(思・判・表)
- ウ 自分の役割が分かり、意欲的に活動に取り組んだり、制作したのに対して達成感や満足感を感じたりする。(学・人)

③ 単元の概要

本単元では、「クリスマス」を題材に、絵本「ばばばあちゃんのクリスマスのかざり」を活用した制作活動を通して、感じたことを表現する力と、相手を意識して伝える力・聞く力を育成することを目的としている。これまでの季節の飾り制作や展示、感想発表のやりとりの経験を生かし、絵本から得たイメージをもとに主体的・協働的に制作に取り組めると考えた。また、国語科と関連させ、読み聞かせや友達の発表を聞いて内容を捉える場面や、言葉や手話で自分の思いや考えを伝え合う場面を設定する。さらに、校内掲示・保護者への紹介、アンケート作成といった発信活動を通して、相手の話を聞き取る力と自分の気持ちを表現する力の向上を図れると考え、本単元を設定した。

④ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び児童生徒の変容

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 聞く姿勢の意識付け

振り返り発表の場面において、自分が頑張ったことは、「○○を頑張りました」と発表するが、友達の発表に対する意見や感想はほとんど話すことがなかった。そこで、話し手が発表した後に、聞き手にその発表内容を話してもらう場面を設定したところ、友達の発表を聞くようになり、「○○さんは、△△を頑張っていました」等の感想や、「もっと○○してほしい」等のアドバイスを伝える姿が見られた。また、発表内容について具体的に述べる児童も増加してきている。今後は、児童一人一人の実態に応じた支援を継続しながら、主体的に振り返り発表に取り組む力の育成につなげていきたい。



写真1 タブレット型端末の活用した発表

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 理由、方法、様子などを考えて話すための働きかけ

授業のまとめで制作した作品を見せ合う発表の中で、抽象的な言葉を具体化できるように「どのような形にしたいですか?」「なぜその形にしたのですか?」などの問い掛けを行い、理由を意識したり、自分の想像しているものを伝えたりできるよう支援した。また、少人数の学級編制を生かし、友達同士で制作した物を見せ合う活動を取り入れた。「かわいい」という表現に対して「どんなところがかわいいですか?」や「星を付けました」という表現に「なぜ星を付けたのですか?」などと教師が仲立ちをすることで、具体的な言葉の表現が出てきたり、友達の意見を参考に考えたりする経験につながった。繰り返し行ったことで、教師の問い掛けを待たずに自分から考えて行動しようとする姿が見られるようになってきた。



写真2 友達と作品を見合う場面



写真3 教師が仲立ちする場面

⑤ 個別の達成状況

対象児童・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
A (4年)	国語 小2	○	○	○	・「この部分は何ですか?」等の教師からの問いかけに対し、「プレゼントのリボンです」「ダンボールでイチゴを作ります」等、具体的に伝えた。
B (5年)		○	○	○	・タブレット型端末を活用して、体験したことや経験したことについての感想を入力し、友達に自分の思いを伝えた。
C (4年)	国語 小3	○	○	○	・難しかったことや頑張ったこと等を、自分の言葉で友達に伝えたり、友達の作品を見て、さらに良くなるようなアドバイスを考えたりした。
D (5年)		○	○	○	・感想発表の中で自分が制作した物について、特徴や見てほしいポイントを考え、二語文、三語文で伝えた。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一とする。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 語彙を豊かにするための工夫

友達の制作物を見合い、感想を伝え合う場面を設定したことで、児童が自発的に思いを話すことが増えたが、児童が「もっと細かく伝えたい」「適切に伝えたい」と言った際に、教師が代弁することもあった。児童が自分の思いに近い表現で話せるように、定型文を提示したり、児童のよい表現を板書したりして共有する支援の工夫が必要と考える。

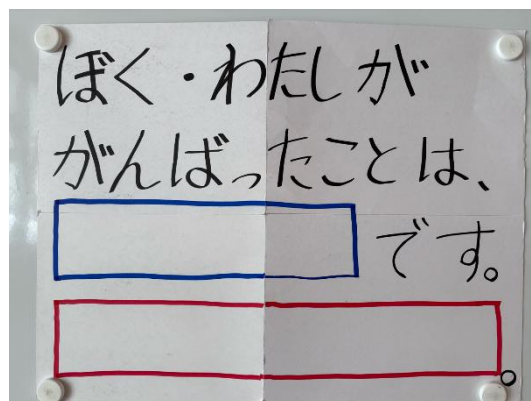


写真4 定型文の例

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 感想や意見を伝え合う場面設定の工夫

児童が友達の作品に対して感想と意見を話すことを繰り返し行ってきたところ、「クリスマスツリーを10個作って欲しい」「ダンボールの周りを緑にして欲しい」など、数、色、大きさ等を具体的に話せるようになった。後の授業研究会で、「作品を鑑賞し合う上では、良い点を伝え合う活動の方が適切ではないか」といった意見もあった。「よいところコーナー」等で友達の作品の良いところを伝える場面を設定するなどの工夫が必要であった。

2 授業実践の事例②

(1) 授業実践で取り扱った国語科・学習指導要領の内容と年度初めの評価

対象児童・学年	教科・段階	領域	知識及び技能	評価	思考力・判断力・表現力	評価	主体的に学ぶ態度	評価
E(2年)	国語 小1	聞く 話す	・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じている。	△	・身近な人からの話し掛けに注目し、応じている。	△	・身近な人に注目し、話し掛けに答えようするなど、人と関わろうとしている。	○
A(4年) B(5年)	国語 小2	聞く 話す	・身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が気持ちや要求を表していることを感じている。	△ ○	・簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をしている。	○ △	・身近な人の話し掛けや会話などに注目し、指示に応じた行動をとろうとしている。	△ △
C(4年) D(5年)	国語 小3	言葉の 特徴や 使い方	・姿勢や口形に気を付けて話している。	△ △	・相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けている。	△ △	・正しい姿勢や明瞭に発音すること、相手との距離や場面に応じた声の大きさなどに関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。	△ △

※評価欄は令和7年5月の評価を示し、評価の指標は次の通りである。

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
△：一部達成している。まだ支援を要する。

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名(指導内容)★イニシャルは児童名を示す。
国語	「きいてこたえよう①」(絵本に登場するものの名前を答える)…E 「読んでみよう①②」(挿絵と登場人物の行動や場面の様子を結び付け順番に並べたり、簡単な質問に手話などで答えたりする)…B 「ひらがなやかたかなをよもう、えほんをよもう」(声の大きさに気をつけて絵本を音読する)…C、D 「ぎょうじのおもいで」(経験し、楽しかったことを言葉で表現する)…A
生活単元 学習	「おはなしのせかいへ」(物語の世界を制作したり、台詞を話したりする)…E 「たのしいがっこうをつくろう」(四季や天気のおおまかな特徴を知り、オノマトペや絵、製作活動を通して表現する)…A、C、B、D 「毎月の振り返り」(月ごとの目標決めとその評価、行事ごとの振り返りやお礼状書きをする)…A、C、B、D

	「せんぼくいきいき3デイズをたのしもう」(丁寧な言葉遣いで話す) …C、D
日常生活 の指導	「日直の仕事」(朝の会、帰りの会で司会をしたり、学習時の号令をかけたりする) …E、C、D 「今日の思い出」(帰りの会で今日の1日を振り返り、思い出を話す) …A、B

(3) 国語科の対象単元の実践事例

単元名「読んでみよう①～十二支のはじまり」(計24時間) ★令和7年7月実施

① 単元目標

- ア 登場する動物の名前を正しく書いたり、場面ごとに動物の行動や様子に関わる簡単な質問に答えたりする。(知・技)
- イ 挿絵の場面に合った行動を取るなど、言葉と行動を一致させる。(思・判・表)
- ウ 読み聞かせに合わせて物語の一部を手話で表現したり、物語の流れに合わせてイラストを順番に並べたりする。(学・人)

② 個別の達成状況

対象児童・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
B(5年)	国語 小2	○	○	◎	・読み聞かせ、挿絵・十二支の並べ替え、質問と学習の流れを繰り返したことで、登場する動物や日付を手話で表現したり、順番にイラストを順番に正しく並べたりすることができた。質問には、手話、カードや筆記、発声など様々な形で答えることができた。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一である。

(4) 生活単元学習の対象単元の実践事例

① 単元名「つくろう とどけよう カレンダー」(計26時間) ★令和7年7月実施

② 単元目標

- ア 友達や地域の方とやりとりをしながら、協力してカレンダーを作る。(知・技)
- イ 自分の役割や活動内容が分かり、正確にカレンダーを作る。(思・判・表)
- ウ 校外学習で訪れた仙北市の身近な自然や観光名所をカレンダーのデザインにし、地域の良さを感じたり、表現したりする。(学・人)

③ 単元の概要

本単元は、年間を通して設定され、1年生から6年生までの6年間、継続的に実施している。学部全体での単元であることから、学級以外の友達や教師、ボランティアの地域の方との関わりの中で、様々なやりとりや協力の場面が生まれ、関わりの幅の広がりが期待できる。また、はじめの会、制作、終わりの会と学習全体活動の流れに加え、決められた枚数のパーツを決められた場所に貼るなど、おおまかな活動の内容を固定化し繰り返し取り組むことで、見通しをもち、安心して取り組める内容となっている。

また、季節毎の校外学習を計画し、四季の自然の変化や仙北市内の観光名所、食べ物を知り、カレンダー制作のアイデアや意欲付けにつながる体験的な学習を設定した。経験したことは、写真を見たり絵を描いたりして振り返ることにより、様々な言葉の表現が生まれ、カレンダー制作をしながら地域の方に伝えたり、友達同士で会話をしたりするなどのやりとりなどのきっかけにもなり、様々な表現の拡充を図ることができると考える。

さらに、カレンダー完成後にはお世話になった場所を巡り、実際に作ったカレンダーを配付することで、受け取った方々から実際に感想や感謝の言葉を聞くことができ、活動に意欲的に取り組むことができると考えた。国語科に関する単元や生活単元学習の月毎の振り返りや四季の表現活動への単元につなげたいと考え、本単元を設定した。

④ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び児童生徒の変容

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 相手意識をもった発表活動や製作活動

はじめの会、終わりの会では、児童が自分で司会を進めていけるように、めくりの会次第（写真4）を使用した。会次第には、項目ごとに担当者の顔写真カードを添付したことで、相手の顔を見て依頼したり、カードを手渡したりして相手を意識したりすることができた。また地域の方がいることで、はりきって司会を進め、相手に伝わる声の大きさにも気を付けて話す姿が見られるようになった。



写真5 会次第と地域の方への依頼場面

活動内容は、見本を提示し、決められた場所へパーツを決められた数だけ貼るという活動（写真5）にしたことで見通しをもち、スムーズに活動できるようになった。カレンダー制作2年目となった2年生児童は、活動の内容を理解し、“一人でやりたい！”という気持ちが芽生え、一人で黙々と取り組んでいた。また、作り方や指示を理解したことで、地域の方との教師を介していたやりとりが減り、直接的なやりとりが増えた。さらに決まった活動の他にも地域の方の依頼を聞いて、内容を理解し、完成した台紙をホワイトボードに貼ったり、ゴミを捨てたりする姿も見られるようになった。



写真6 台紙とパーツ（葉っぱとたつこ像）

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 自分の思いを伝える力の向上

季節ごとに校外学習を計画、実施した。学習の初めには写真を見ながら校外学習の振り返り（写真7）をすることで、校外学習に参加していない地域の方へ、雨の中、滝を見に行ったことを「水が流れている」「靴、びちゃびちゃだった」などの自分の言葉で伝えることができた。制作しながら実際に田沢湖などの校外学習へ出掛けた時の思い出を話す姿も見られ、経験したことを地域の方へ伝えることがきっかけとなり、会話が広がった。また活動グループを固定化（写真8）することで、会話が増えただけでなく、制作が終わった後には、好きな絵本を地域の方に持っていき、手話で「お願い」と依頼して、



写真7 校外学習振り返り



写真8 地域の方との活動

絵本を読んでもらうというやりとりも定着し、様々な形で自分の思いを伝える力も向上した。

⑤ 個別の達成状況

対象児童・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
E (2年)	国語 小1	○	○	○	・学習グループや関わる地域の方を固定化したことで、相手の話し掛けを聞いたり、一緒に活動したりすることが増えた。
A (4年)	国語 小2	○	◎	○	・はさみで切ったり、絵を描いたりなど本児の得意な活動を取り入れたことで、指示や説明に応じた行動が取れるようになった。
B (5年)		○	○	○	・関わる地域の方、活動内容を固定化し、繰り返したことで教師以外への話し掛けにも応えて活動できるようになった。
C (4年)	国語 小3	△	○	○	・司会の役割があることで、声の大きさなど相手を意識して話せるようになった。地域の方がいるとより張り切って活動していた。
D (5年)		△	○	○	・司会や振り返りの報告の担当を繰り返したことで、自信をもって話すことが増えた。言葉掛けにより姿勢も意識して発表することが増えた。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一とする。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 体験の言語化

写真や動画による振り返りでは、児童から思い思いの言葉での表現が見られた。自分で経験したことを話して伝えることに加え、段階的にオノマトペや単語での表現、簡単な文章や日記など、ステップアップしながら表現し、児童が考えて書いた体験文をカレンダーの一部に取り入れていくことで、言語化する力が積み重ねられていくと考える。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 語彙の拡充に向けた発問

振り返りの場面では、毎回同様の振り返りシートを活用し、振り返りを実施した。

1つ目は、「協力できたか」、2つ目は、「正確にできたか」を丸や花丸で評価する形で実施してきた。「どんな風に」「どこの部分を」など、教師の質問の工夫により、自分たちの活動をより具体的な言葉で表現できるように教師が発問を工夫し、考えていくことが必要である。

3 まとめ

(1) 成果

① 言語活動の充実による聞く力の向上

聞く力の向上のために、聞くときのルールとして「終わりまで聞く」「顔を見る」「姿勢」を授業前に確認していた。しかし、授業の展開の中で姿勢が崩れたり、教師や友達の言葉を最後まで聞けなかったりし、意識付けが難しかった。そこで、友達の発表内容を聞いてその内容を話したり、アドバイスを伝え合ったりする場面を繰り返し設定したことで、話をしている人の顔を見たり、最後まで聞く姿勢を保ったりするなど、話を聞く態度が定着した。

② 表現力の向上

国語科だけではなく、日常生活の指導、生活単元学習、音楽など、教科横断的に感想発表や気持ちを伝え合う場面を増やしたことで、自分の経験から語彙を発信したり、友達の発表

や発言から言葉を習得したりすることができた。言葉の意味や言葉での表現が難しいものは、絵や動作、実物などに言葉を交えて伝える様子も見られた。また、こうした自分の思いを話せる雰囲気づくりをしたことで、児童の主体的な発言が引き出され、友達や教師とだけではなく、地域の方とのやりとりもスムーズになった。

(2) 課題

① 詳しく伝える力の育成

児童からの「かわいい」「すごい」などの感想を「何が」「どのように」などの視点から語彙を広げて相手に詳しく伝えたり、場面に応じて正しい言葉遣いをしたりすることなどの課題が挙げられた。次年度は定期的に児童一人一人の語彙や話し言葉の実態、国語科や各教科等を合わせた指導における学習内容などを職員間で共通理解し、日々の授業づくりを行う必要がある。

③ 児童一人一人の読み書きの力の向上

今年度の研究を通して、友達の発表内容を意識して聞いたり、自分の感想を話したりするなど「聞く・話す」力が育ってきた。今後の課題は、日常生活で必要な語句や文を読んで内容を理解して適切に行動したり、自分の思いや考えを文に起こして書いたりすることである。そのためには、児童一人一人の学習状況に応じて国語科での読み書きに関わる系統的な指導や手立ての工夫、学習量の確保等が必要である。また、絵本等で文字に触れる機会や簡単な感想を書く機会を設定するなど、日々の授業実践に取り入れて、段階的に読み書きの力を育成したい。

